

自己点検・評価の視点	自己評価	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	<p>プログラムの履修・修得状況</p> <p>良好</p>	<p>「数理・データサイエンス・AI教育運営委員会」(以下、委員会と称す)においてプログラムの履修・取得状況の把握と分析を実施している。プログラムを構成する各科目の履修状況は、委員会および各教員がリアルタイムで把握できるようになっている。また、単位修得状況は、半期にいちど委員会で共有されており、履修者ごとの単位取得状況を整理している。</p> <p>令和6年3月末現在の3年生のプログラム履修状況は次のとおりである。なお、休学者を除く在籍者は31名である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「情報教養Ⅰ」単位取得者: 30名 ・「情報教養Ⅱ」単位取得者: 31名 ・「人工知能入門」単位取得者: 18名 <p>このうち、「情報教養Ⅰ」「情報教養Ⅱ」は必修科目であるため、この学年のプログラム履修者は「人工知能入門」の単位取得者である18名であるといえる。「人工知能入門」を履修していない学生にも、本プログラムの重要性を説明するとともに履修を促している。</p> <p>なお、1年生および2年生は必修科目である「情報教養Ⅰ」「情報教養Ⅱ」を履修している。2年生には、次年度に「人工知能入門」を受講することを促している。</p>
	<p>学修成果</p> <p>良好</p>	<p>「数理・データサイエンス・AI教育運営委員会」で、主として授業評価アンケートに基づく学生からの評価を整理し、学修成果の評価を行うとともに改善案を出すようにしている。ここで議論された内容については、(実質的に本学全教員が参加する)情報メディア学科会議で報告および議論を行い、全学で共有している。また、授業評価アンケートによる学生からの主観的な評価だけでなく、成績を分析することによる客観的な評価も合わせて行っている。</p> <p>授業評価アンケートで、「授業の内容に興味を持ち、より深く学びたいと思いましたが。」という設問に対し、「強くそう思う」「そう思う」との解答を選択した学生の割合はそれぞれ次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「情報教養Ⅰ」: 75% ・「情報教養Ⅱ」: 64% ・「人工知能入門」: 67% <p>それぞれ高い割合となっており、学修成果が高いという判断を行った。</p>

<p>学生アンケート等を通じた 学生の理解度</p>	<p>良好</p>	<p>本学は前期・後期の2学期制をとっており、期末ごとに全学生に対して履修している全授業に関する授業評価アンケートを実施している。「数理・データサイエンス・AI教育運営委員会」で、授業評価アンケートに基づきプログラムに関する科目の理解度を分析している。</p> <p>授業評価アンケートで、「授業全体についてよく理解できましたか。」という設問に対し、「強くそう思う」「そう思う」との解答を選択した学生の割合はそれぞれ次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「情報教養Ⅰ」：54% ・「情報教養Ⅱ」：57% ・「人工知能入門」：50% <p>学生の理解度を向上させる工夫を継続的にとる必要があるものの、概ね高い高い割合となっており、学生の理解度は良好であるという判断を行った。</p>
<p>学生アンケート等を通じた 後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>良好</p>	<p>授業評価アンケートに寄せられた授業への感想・意見等について、後輩等他学生の参考になるものをホームページで公開している。また、本教育プログラムを履修した学生が最初に卒業するのは令和6年度であるが、卒業生には卒業時アンケートにおいて本教育プログラム全体についての評価を行ってもらい、後輩等他学生への推奨コメントをホームページや学生向けガイダンスで紹介する。</p>
<p>全学的な履修者数、履修率 向上に向けた計画の達成・ 進捗状況</p>	<p>良好</p>	<p>これまでの教育プログラムは「情報教養Ⅰ」「情報教養Ⅱ」の2科目が1年次開講かつ全学必修科目で、「人工知能入門」が3年次開講の選択科目であった。これまでも、数理・データサイエンス・AIを学修することの重要性を学生に説明してきた。令和6年度からは、数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーレベルの知識獲得に関する重要性を考慮し、3科目とも1年次開講の全学必修科目として開講する。なお、「人工知能入門」の科目内容に変更はない。これにより、全学生がリテラシーレベルの数理・データサイエンス・AIについて学ぶことになる。</p>
<p>学外からの視点</p>		
<p>教育プログラム修了者の進路、 活躍状況、企業等の評価</p>	<p>卒業生なしのため計測不能</p>	<p>卒業後の進路は本学キャリア支援室が管理しており、卒業後の活躍状況についても把握可能である。本教育プログラム履修者が卒業するのは令和6年度のため、まだ企業からの評価は集約できないが、履修者の卒業後は既に本学で行っている卒業生の評価に関する企業アンケートに本教育プログラムに関する項目を加えて、評価を行う予定である。</p>
<p>産業界からの視点を含めた 教育プログラム内容・手法 等への意見</p>	<p>良好</p>	<p>本教育プログラムを履修した学生は令和7年（令和6年度）に卒業する。令和7年以降は本学で行っている卒業生の評価に関する企業アンケートに、本教育プログラムに関する項目を追加することになっているので、当該アンケートの回答を教育プログラムの改善に活かしていく。また、令和5年度の本教育プログラム履修学生の状況を分析した上で、協定を結んでいるIT企業はじめこれまで関りのあるIT系以外の企業からもニーズなどの意見収集をすることで、より充実した教育プログラムを目指していく。</p>

<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>良好</p>	<p>本プログラムを構成する3科目とも、本学の「情報メディア学部」のカリキュラムの中核となる情報技術に関する科目であり、学生の専門分野への関心と結びつけて授業を展開できる。「人工知能入門」では、実際にデータサイエンスやAIのプログラミングを行いながら学習を進めることで、学生は楽しさを実感できる。本プログラムを構成する「情報教養Ⅰ」「情報教養Ⅱ」は、情報処理技術者試験のひとつである「ITパスポート試験」に対応する科目にもなっている。学生は現実に出題されているITパスポート試験の試験問題を解きながら、学ぶことの意義を確認できる。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>良好</p>	<p>「数理・データサイエンス・AI教育運営委員会」で科目内容や水準の検討を行っており、維持・向上に努めている。たとえば、令和5年度前期科目「人工知能入門」で生成AIをいち早く取り入れるなど、社会と技術の進化に対応するとともに基礎的な学修内容とのバランスを取る工夫を続けている。さらにわかりやすい授業とするため教員間で情報共有を続けている。また、「情報教養Ⅰ」「情報教養Ⅱ」は情報処理技術者試験の試験内容にも対応しており、試験内容の変化はこれらの科目の教育内容の変化にも繋がっている。</p>